

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	畜産課長 川津 章弘	電話番号	0852-22-5132
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	BSE検査体制確立事業		
目的	(1) 対象	畜産農家及び消費者	
	(2) 意図	48ヵ月齢以上の死亡牛についてBSEの検査を行い、安全安心な畜産物の供給を図る。	
事業概要	牛海綿状脳症（BSE）清浄国維持及び食の安全安心を確保するため、48ヵ月齢以上の死亡牛に対して、BSE対策特別措置法に基づくBSE検査を実施する。		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	年間のBSE検査対象死亡牛の検査実施率	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	%
	式・定義	BSE検査実施頭数/BSE検査の対象死亡牛頭数	取組目標値					
			実績値	100.0				
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	11,639	13,660
うち一般財源(千円)	9,033	10,752

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成27年度は450頭のBSE検査を実施した。死亡牛のBSE検査並びに死亡牛処理は滞ることなく実施されている。より効率的な死亡牛処理体制の構築を進める必要がある。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成27年度4月1日からBSE検査検査対象月齢が24ヵ月齢から48ヵ月齢以上に引き上げられたが、滞ることなく検査体制の移行ができた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
BSE検査に係る採材施設の維持管理及び検査機器の精度管理の実施が困難。
- ②困っている状況が発生している「原因」
事業開始から14年目を迎え、BSE検査に係る採材及び検査施設及び検査機器の経年劣化が生じている。BSE検査成績は国が集計し国際獣疫事務局に提出して評価を受けるため、検査精度の担保が必要である。
- ③原因を解消するための「課題」
検査機器の精度管理のための予算確保。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

採材施設の計画的な修繕を実施。BSE清浄国という国際的な評価を維持するためには、国が主体となった取組が必要なため、国庫負担金による検査機器の精度管理にかかる費用の予算措置を要望する。

9. 追加評価（任意記載）

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。